明治から昭和初期における熊本県及び市の建築指針と建設実態

小学校の南側廊下校舎に関する研究

BUILDING GUIDELINE OF KUMAMOTO PREFECTURE AND CITY
AND THE CONSTRUCTION ACTUAL CONDITION

A study on the elementary school building with a south-side corridor

秋元一秀*

Kazuhide AKIMOTO

This study aims to clarify the actual condition and the background of the elementary school building with a south-side corridor in Kumamoto prefecture from Meiji to the early stages of Showa. Findings are follows: 1) In the guideline of the elementary school building, Kumamoto prefecture showed the standard about the arrangement composition and the form of the school building earlier than the government. 2) The tendency which follows the guideline of the government or prefecture was seen in the arrangement composition and the form of school buildings. 3) Although it was said that Kumamoto prefecture insisted on the south-side corridor in a school building, numbers of that building were few and their rate of a north-side corridor increased as time passes. However, at the southern prefecture area and centering on Kumamoto, there were many school buildings with a south-side corridor, so regionality was seen. 4) At the beginning of Taisho, the Kumamoto prefecture changed to the guideline to leave it to judgment of each corporation. Kumamoto city recommended the south-side corridor, and accordingly school building with a south-side corridor increased after that.

Keywords: south-side corridor, elementary school, Kumamoto prefecture, regionality, judgment of corporation

南側廊下, 小学校, 熊本県, 地域性, 自治体の裁量

1 目的と方法

1.1 目的

小学校の校舎の多くにみられる北側廊下の形式は、明治中期以降、文部行政主導のもと拡大し定着していった。その経緯に関しては、既往文献¹⁾において、「小学校令」等の法制度の整備過程を軸として解明されている。また、こうした流れの中で、三島氏は明治24年以降の九州・奥羽・四国山陽地方における学校衛生の取り調べをもとに、西南地方の学校において南側廊下を設ける傾向があることを指摘しており^{注1)}、さらに、青木氏は熊本・高知両県が南側廊下を主張していたと述べている^{注2)}。

小学校は地域に密着した教育施設で、地域の実情に即して独自の改変・改善を重ねて今日に受け継がれてきたはずと、大場氏が指摘しているように^{注3)}、地域ごとの実情をくみ取ったうえで、小学校校舎の形成過程を検討する試みはいまだ少ない^{5~12)}。先に述べた南側廊下を主張したとされる熊本・高知両県の実態に関する研究としては、山本氏の大正12年に建設された熊本県八代市の代陽小学校に関する報告¹³⁾があるのみである。尚、この小学校の校舎は南側廊下であり^{注4)}、また、同時期以降に熊本市で建設された小学校でも南側廊下の校舎がみられた^{注5)}。

ところで、明治33年の「小学校令」の改正にともない、小学校の設置、新築・増改築に際して知事が認可を与えることになり^{注6)}、熊本県が所蔵している県政資料¹⁵⁾の中に、明治44年から大正7年にかけてのそうした届け出の文書が図面とともに残されている。また、同時期の熊本市では、議会において小学校建設に関する案件が審議されている^{注7)}。

本研究では、これらの史料をもとに当時の熊本県における小学校校舎の配置構成及び校舎形態の特徴を明らかにするとともに、南側廊下校舎を持つ小学校に関しては、その建設年代ごとの政府、県及び市の小学校建築に対する指針との関係からその背景を明らかにすることを目的とする。

1.2 方法

まず、既往文献^{1), 2), 17)}から明治以降大正にかけての小学校建築に対する指針を政府と熊本県それぞれにおいて把握し、特に校舎の配置及び平面構成に関する熊本県の特徴を明らかにする。

表1 県政資料掲載小学校届出概要

届出内容	新築	移築	増・改築	高等科・農業補習校等の併置	敷地拡張・縮小	施設以外の届出	計
小学校数	8	3	61	81	14	8	175

* 崇城大学工学部建築学科 教授・博士(人間環境学)

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Sojo University, Dr. Human Env.

次に、県政資料に掲載されていた小学校を、当時の県下の小学校数及び立地する地域からその偏りを確認する。尚、対象とした県政資料の届け出の中で、図面が掲載されていた小学校数は175校であり^{注8)}、その内容は新築に限らず、増改築や敷地の拡張等を含んでいた(表1)。これらの配置及び平面図を通して、当時の学校建築に対する課題の中から校舎の配置構成及びその形態、並びに、校舎における廊下位置に関して、その特徴を新築のものとそれ以外との比較を踏まえ明らかにし、南側廊下校舎をもつ小学校の実態、並びに、小学校建築に対する政府と県の指針との対応関係を考察する。

さらに、南側廊下校舎を持つ小学校に対しては、建設の経緯をそれぞれの学校史等から把握し、大正期以降も南側廊下校舎の建設がみられる熊本市における小学校校舎の廊下位置の実態を学校史等に掲載されている平面図から明らかにするとともに、その背景に関して市議会会録¹⁶⁾等から考察を加える。

2 明治期の熊本県における小学校建築に対する指針と建設実態

2.1 小学校建築に対する指針と熊本県の特徴

政府及び熊本県における法令^{2)、17)、18)}から、特に校舎の配置構成、校舎形態、並びに、校舎における廊下位置に関する指針を把握する(表2)。

表2 明治から大正初期における政府及び熊本県の小学校建築に対する指針

		明治15年	明治23年	明治24年	明治25年	明治28年	明治29年	明治32年	明治32年	明治32年	明治33年	明治33年	明治37年	明治41年	大正2年
		文部省示諭	小学校令(改正)	小学校設備規則(熊本県)	小学校設備規則(熊本県)	学校建築図説明及び設計大要	熊本県訓令 小学校建築標準	小学校設備 準則改正	小学校設備 上の注意訓 令	小学校設備規則 改正 (熊本県)	小学校令施行規 則	小学校令施行に 関する規定 (熊本県 県令第百号)	学校建築設計要項 (小学校)	小学校令施行規則改正 (熊本県 県令 第九号)	小学校令 施行規定 (熊本県 県令 第五号)
敷地		長方形にして児童1人につき坪半を下らざるを可とす 東南もしくはは南方に面するを可とす		校地は日当たり好く…	坪数は校舎建坪数の外体操場又は遊戯場の余地あるを要す	校舎の敷地は生徒1人につき2坪以上								校地は生徒1人につき2坪以上なるべし	
配置						校舎は敷地の北方に建つるを良とす若し北に建て難きは西北に建つるを要す	校舎は敷地の北方に建つるを良とす若し北に建て難きは西北に建つるを要す	二棟以上の建物を並列して建築するときはその相互の距離は少なくとも建物の高さと同尺以上なるを要す	二棟以上の建物を並列して建築するときはその相互の距離は少なくとも建物の高さと同尺以上なるを要す	体操場又は遊技場は方形若しくは二角形とする形状にして成るべく校舎の南方又は東方に設け其面積は左の規定に依るべし…			屋外体操場は方形若しくは之に類する形状にして、其位置は成るべく敷地の南方又は東方を選ぶべし 甲の建物と乙の建物との隔たりをして少なくとも一方の建物の高さとの間隔あるを要す 又一棟の長は其幅の8倍以内たるべし		小学校の校地校舎体操場は学校の規模に適合せしむべし
校舎		校舎は平家…敷地体積があるときは2階を設くる…	小学校に於いては校舎校地校具体操場を備え又農科を設くる小学校においては農業実習場を備ふべきものとす	なるべく平屋造	成るべく東西に長く南北に短きを要するを要す 光線の注射空気の流通に便なるを要す	校舎は敷地狭小にして止むを得ざる場合の外は平家造長方形、凸凹形、工字形を選ぶ可し	校舎は長方形にして南に向はしむべし	特別の事情ある場合を除く外平屋造と為すべし		校舎は成るべく平屋造とし	校舎は平屋造と為すべし…特別の事情あるときは2階造と為すことを得	校舎の形状は成るべく一字形若しくは工字形とし南方より光線を受ける方向を選ぶべし 校舎は平屋造と為すべし	形状は…成るべく長方形、凸凹形若しくは工字形、坪形の内外を選ぶべし…平家造と為すべし、但し敷地狭小にして止むを得ざる場合に於ては2階造と為すことを得		
平面計画		幼年の児童及び女子の教壇はなるべく階下に		2階造なるときはなるべく幼年生の教室を階下に	2階造なるときは教員室は階下に置くを要す	体操室を設くる時は他の教室と接近せしむべからず				2階造となるときは幼年生の教室並に教員室を階下に置くを要す		特別の事情あるときは2階造と為すことを得その場合に於ては幼年児童の教室並に教員室を階下に置くを要す		校舎の各棟には渡廊下を設けて接続すべし	
諸室計画	教室、 教壇	長方形なるものを便なりとす…其長さ5間に過ぎざるを可とす 一教壇に入るべき児童の数は凡そ60人を最多数とす…授業並びに管理上には児童のものは30人内外とす 教壇の平面積は1人の児童につき3尺平方以下に下らず 窓の位置は…東南または南方に之を設くるを可なりとす				長方形とし室の方向は南または西南、東南とし…図面、裁縫教室等の…三方より採光すべし 教室と生徒数の割合は1坪につき生徒凡そ4人 教室の大きさ(第1表参照)	多級学校の教室は幅3間以上4間以下、長さ4間以上5間以下、単級学校の教室は幅及び長さ各4間以上5間以下を常例とし、その大さは生徒4人に付1坪以上の割合なるを要す 採光窓は通常廊下に接せざる窓にして…	多級学校の教室は幅3間以上4間以下、長さ4間以上5間以下、単級学校の教室は幅及び長さ各4間以上5間以下を常例とし、その大さは生徒4人に付1坪以上の割合より小なるべからず	多級学校の教室は幅3間以上4間以下、長さ4間以上5間以下、単級学校の教室は幅及び長さ各4間以上5間以下を常例とし、その大さは生徒1人に付3尺平方の割合より小なるべからず	多級学校の教室は幅3間以上4間以下、長さ4間以上5間以下、単級学校の教室は幅及び長さ各4間以上5間以下を常例とし、その大さは生徒1人に付3尺平方の割合より小なるべからず	(同左)	形状は長方形とし室の方向は南、西南、東南又は西方の内を選び、総て光線を生徒の左側に設け、且右側に廊下を設け、 裁縫教室等の…三方より採光すべし	多級学校の教室は幅3間以上4間以下、長さ4間以上5間以下を常例とし、その大さは生徒1人に付3尺平方の割合より小なることを得ず	教室は幅4間長さ5間を以て常例とし土地の情况に依り幅3間半長4間まで縮小し高小級小学校の教室は幅及び長さ各5間と為す大さは教壇の占むるべき面積を除き児童1人につき3尺平方の割合より小なることを得ず	
	廊下				中廊下を設けて教室を左右に配列する等のことあるべからず	廊下は室外に設け其幅は6尺以上とするを要す	片廊下を常例としその幅6尺以上とするを要す	片廊下と為すを常例とす	廊下は片廊下を常例とし其幅6尺以上なることを要す	片廊下を常例としその幅は6尺以上たるべし	廊下は片廊下に於て北方に設くるを常例とし其幅は6尺以上たるべし	中廊下を設け室を左右に配列すべからず 片廊下を常例とし、其幅は6尺以上たるべし			
	昇降口	男女を別にし且其位置は恒風の向きを避くべし				玄関を設くるときは風に教室に入らせざる様なすを要す 生徒の出入口は恒風の向を避け広さは6尺以上とし…	なるべく男女を区別し常風の方向を避くべし	昇降口は成るべく男女を区別し常風の方向を避くべし	なるべく男女を区別し常風の方向を避くべし	昇降口は成るべく男女を区別し常風の方向を避くべし	(同左)	男女を区別し、常風の方向を避け、内部を土間とし、…			
	その他諸室	女子と為には殊に裁縫礼節等の教壇、教員詰所、湯浴所、便所等…講室、食堂等を備ふるも最も便なり 体操場及び遊戯場も亦男女の区域を別にし			…教員室及び生徒控所等を備ふべし	教員室は成るべく体操場に面するを要す		教員室は生徒の監督に便ならしむるため成るべく体操場に面してこれを設くるを要す 唱歌教室を設くる場合は必要なる場合に於ては講室、生徒控所、南中体操場、宿直室、湯浴室、小使室、物置等を…	教員室は生徒の監督に便ならしむるため成るべく体操場に面してこれを設くるを要す 唱歌教室を設くる場合は必要なる場合に於ては講室、生徒控所、南中体操場、宿直室、湯浴室、小使室、物置等を…	体操場は分て屋外体操場及び屋内体操場とす …教員室を設くべし…外編歌、裁縫等を課する学校に於ては便宜特別教室を設け又必要なる場合に於ては講室、児童控所、宿直室、湯浴室、小使室、物置等を設くべし	(同左)	体操場は分て屋外体操場及び屋内体操場とす …教員室を設くべし…外編歌、裁縫等を課する学校に於ては便宜特別教室を設け又必要なる場合に於ては講室、生徒控所、宿直室、湯浴室、小使室、物置等を設くべし			

まず、小学校建築に顕著な影響を及ぼす契機となったといわれる明治19年の政府による「小学校令」、同23年の「小学校令」改正とその細則のひとつである同24年の「小学校設備準則」では、校舎の配置構成等に関しては触れられていない。一方、熊本県は翌25年「小学校設備規則」において、『校舎ハ成ルヘク東西ニ長ク南北ニ短キヲ要ス』や『校舎ハ光線ノ注射空気ノ流通ニ便ナルヲ要ス』とあり、校舎形態や教室における採光・通風へ考慮する内容を含んでいる。

明治28年には文部省会計課建築掛が「学校建築図説及び設計大要」において、配置構成として、体操場はなるべく敷地の南または東に位置することを奨め、校舎形態では長方形・凸凹形・工字形を推奨し、また、廊下に関することでは中廊下を避け、教室の向きは南または西南・東南を良しとしている。一方、熊本県は翌29年に「小学校建築標準」において、配置構成及び校舎形態に関して『校舎ハ敷地ノ北方ニ建ツルヲ良トス若シ北ニ建テ難キハ西北ニ建ツルヲ要ス』、『校舎ハ長方形ニシテ南ニ向ハシムベシ、数棟ノ校舎ヲ要スルモノハ四間乃至五間ヲ距テ、同形ノモノヲ並列シ四字形、回字形、脇股形等ハ之ヲ避クルヲ要ス』とあり、北側校舎・南側運動場の配置構成、並びに、校舎の南面化と並列配置を推奨していることが確認できる。また、廊下に関しては、『廊下ハ室外ニ設ケ其幅ハ六尺以上トスルヲ要ス』とある。

明治 32 年に、政府は「小学校設備準則改正」及び「小学校設備上の注意訓令」により、2 棟以上の建物を並列して建築する場合の隣棟間隔や、片廊下を常例とし、教室の採光窓は廊下側の窓としないなどの内容が加わっている。一方、熊本県でも同年「小学校設備規則改正」を示しており、その内容は政府の指針の大部分をとり入れたものとなっている。これは政府の「小学校設備準則改正」の再改正であり、その理由として『本県小学校教育ノ実質ハ稍進歩ノ好況ヲ呈スルモ其設備ニ至ッテハ他府県ニ比シル下位ニ班ス』と、熊本県における小学校建築のレベルの低さが指摘されており^{注9)}、それまでの県の指針において、配置構成や校舎形態に関する規程が政府よりいち早く示されているが、いまだ浸透していなかったことが窺える。また、その翌年、「小学校設備準則改正」に再び若干の改訂が加えられ、「小学校令施行規則」の中に加えられるが、県でもそれを受けて県令「小学校令施行に関する規定」が示された。その内容の多くは政府のものと同様であるが、校舎形態に関しては『校舎ノ形状ハ成ルヘク一字形若ハ二字形トシ南方ヨリ光線ヲ受クル方向ヲ選フヘシ』が、廊下では『片廊下ニシテ北方ニ設クルヲ常例トシ』が加えられている。三島氏が明治 34 年の官報「校舎衛生上ノ利害調査」^{注10)}において、廊下位置の論争に対し、北側廊下の優位を決定づけたが、熊本県ではその前年に北側廊下校舎を推奨していることは注目すべき点である。尚、九州日日新聞^{注11)}によると、三島氏は明治 24 年 10 月 23 日より 26 日にかけて学校衛生の取り調べのため熊本県を訪れており、市内の小学校では尋常一新小学校と同碩臺小学校を巡視し、同年 10 月 27 日付の新聞では、一新小学校に対して『…一通り衛生の道にかなひ校舎の建築も頗る法に適して先ず可なりの構造なるか…』とあり、衛生上問題なかったことが示されている。

明治 37 年には、建築掛が「学校建築図説及び設計大要」を改訂増補した「学校建築設計要項」を刊行するが、体操場や便所等に関する規定が加わる程度にとどまっている。その後、熊本県でも改正は行われてはいるものの、明治 41 年に教室の大きさに関して『…土地ノ情況ニ依リ幅 3 間半長 4 間マテ縮小シ…』が加えられる程度で、地域の状況を配慮する旨の内容が示され、大正 2 年には『小学校ノ校地校舎体操場ハ学校ノ規模ニ適応セシムベシ』の 1 条にし、それまで行ってきた詳細な規定をなくし、関係当事者の裁量に任せるという方針をとった。この背景に関しては、県内の小学校の設備が改善されたことと明治 42 年の文部省の訓令との関係が推測される。熊本県では、明治 35 年に小学校の設備を完備する旨の訓令と同 40 年に同様の指示が出され、以降大正 2 年までに小学校全体の約 7 割で新築あるいは増改築が行われ、その結果、小学校建築の状況が一新したとのことである^{注12)}。また、明治 42 年の文部省の訓令「学校校舎ノ建築ハ実用ヲ主トスヘキ件」^{注13)}では『…一律一様ノ校舎ヲ造ルノ弊ヲ生シ…土地ノ状況ヲ参酌シテ常ニ実用ヲ主トシ努メテ地方ノ民力ニ伴フシメシムコトヲ記セラルヘシ』と、地域の実情に応じた施設計画を求めていることから、県下の小学校の設備改善と相まった上での方針と考えられる。

2.2 明治大正期の建設実態と建築的特徴

明治 10 年以降の熊本県における小学校数の推移をほぼ 10 年おきにみる。時代ごとに史料は異なるが^{注14)}、小学校が設立され始めた明治 10 年頃を除き、ほぼ 600 校前後で推移していることがわかる。本研究で対象とする県政資料掲載の小学校数を大正 2 年のものと比

較すると、ほぼ 3 割にあたる。地域ごとでは、一番割合の高い球磨郡で 69.8%にあたるのに対し、低いものでは阿蘇郡の 14.9%、八代郡の 16.3%とやや開きがあるが、それ以外の地域では 25~45%で、全体における割合と同程度となる(表 3)。

以下、玉名、山鹿、山本、菊池、合志、阿蘇郡を北部、上益城、飽田、託麻郡と熊本区を中部、下益城、宇土、天草、八代、芦北郡を南部、球磨郡を球磨地方として、地域性を踏まえながら建築的特徴を捉える^{注15)}。

敷地規模は、全体としては 800 坪未満、800 坪以上 1600 坪未満、1600 坪以上がそれぞれほぼ 1/3 ずつを占めている。地域ごとにみると、球磨地方では全体と同様の分布を示し、南部地方では 800 坪未満が約半数を占めるのに対し、北部及び中部ではそれぞれ 25%と 20%で、北部では 1600 坪以上が 37%、中部では 800 坪以上 1600 坪未満が 47%となり、南部地方では敷地規模の小さいものが、北部及び中部地方では大きいものが多くを占める傾向を示した(図 1)。

校舎規模を延床面積からみると、全体としては 200 坪未満及び 200 坪以上 400 坪未満が 4 割弱、400 坪以上が 2 割強を占めた。地方ごとには敷地規模と同様の傾向を示し、球磨地方では全体と同様な分

表 3 県政資料掲載小学校の地域的分布

	明治11年	明治19年	明治33年	大正2年	注14)	単位:校数
玉名郡	111	78	-	61		県政資料掲載校 16(26.2)
山鹿郡	50	34	-	42		方位 確定校 10
山本郡	21	13	-	42		11(26.2)
菊池郡	31	22	-	42		19(45.2)
合志郡	28	22	-	67		10(14.9)
阿蘇郡	82	65	-	43		12(27.9)
上益城郡	62	51	-	11		4(36.4)
熊本区(市)	68	8	-	54		14(26.0)
飽田郡	27	12	-	33		14(42.4)
託麻郡	51	36	-	16		4(25.0)
下益城郡	27	15	-	75		22(29.3)
宇土郡	67	72	-	43		7(16.3)
天草郡	31	42	-	35		12(34.3)
八代郡	14	34	-	43		30(69.8)
芦北郡	39	41	-	565		175(30.9)
球磨郡	39	41	-	565		28
合計	709	570	607	565		164

()内は、各地区における大正2年時点での小学校数に対する県政資料掲載校の%

図 1 敷地面積

図 2 校舎延床面積

布で、南部地方では規模の小さいものが、北部及び中部地方では大きいものの割合が高く、特に中部では 200 坪を超えるものが 8 割強を占め、400 坪を超えるものも 45%にのぼった(図 2)。

敷地規模、延床面積と校舎形態の関係をみると、校舎形態は概ね延床面積との対応関係が見られた。延床面積が 300 坪未満の場合は 49 校中 34 校が一列型と約 7 割を占め、200 坪を超えると、L 字型、コ字型、並列型がみられるようになり、特に規模が大きくなるほど校舎が平行に並ぶ並列型が卓越してくることが確認できる(図 3)。

方位に着目し、校舎と運動場の位置関係、校舎形態及び廊下位置に関して、明治 44 年から大正 7 年にかけて新築された小学校とそれ以前に建てられたものの比較を踏まえて、それぞれの特徴を述べる。

校舎と運動場の位置関係に関しては、共通して北側校舎・南側運動場の形態が多く、新築で 75%、それ以外のもので 68%を占める。残りは、新築では東・西あるいは西・東の配置になるのに対し、それ以外のものでは南側校舎・北側運動場や囲み型の配置など様々な形態がみられた。配置構成に関しては、政府と県がそれぞれ明治 28 と 29 年に、校舎を敷地の北もしくは西に配置するよう推奨していることから、それと対応した傾向が確認できた(図 4)。

校舎形態は共通して一列型が 4 割弱と一番多く、続いて並列型、L 字型となり、それぞれの割合は新築がそれ以外に比べ高く、並列型ではそれ以外が 32%であったのに対し新築では 38%に、L 字型でも 16%から 25%へと上昇している。明治 28 と 29 年の政府及び県の指針では、長方形もしくは凹凸型、工字型を推奨していることから、それを遵守する傾向がみられた。届け出より前に建てられていた小学校ではコの字型やそれ以外の形態も 15%を占めるが、その中には増築等の結果、そうした配置構成になったものも含まれる(図 5)。

廊下位置に関しては北側か南側かに着目するため、複数の廊下が存在する場合は、北側と南側の両方とも存在するものと、それぞれどちらかだけに東もしくは西側の廊下がつくものに分類する(表 4)。新築では全て“北側廊下”であり、新築以外でも 3/4 を占め、“南側廊下”、並びに、“北+南側廊下”は、ほぼ 1 割ずつであった。南側廊下の校舎をもつ小学校は 28 校で、全体の 18.1%にあたるが、地域的にみると、山鹿郡・山本郡、玉名郡、阿蘇郡、宇土郡では 1 校もみられないのに対し、飽田郡と託麻郡が合併した飽託郡で 38.5%、球磨郡と熊本市で 33.3%、八代郡で 28.5%を占め、熊本市とその周辺及び県南で高い割合を示した。政府は明治 28 年に教室の方向を南または西南・東南に、県は同 29 年に校舎は南向きに、さらに、政府は同 32 年に採光窓に関して廊下に接する窓にしないようにとあり、県では同 33 年の県令で北側廊下を推奨している。熊本県全体の状況は、こうした指針に従った結果とみることができる。一方、南側廊下を主張していたという点に関しては、県全域でそれを裏付けるような傾向はみられず、その割合が低い地域や南側廊下自体が確認できなかったところと、やや高い割合を示す地域があることから、一部の地域における傾向であったと考えられる(表 5)。

3 南側廊下校舎をもつ小学校の特徴と建設の経緯

新築された小学校に南側廊下校舎のあるものはなかった。そこで、南側廊下校舎をもつ小学校の建設経緯を踏まえ、その特徴を明らかにする。既往文献¹⁾から北側廊下へ移行する時代であることから、北側廊下はなく南側廊下のある小学校と、北側廊下と南側廊下の両

図 3 校舎形態による敷地面積、校舎延床面積

図 4 校舎-運動場の位置関係

図 5 校舎形態

表 4 校舎の廊下位置による分類

図 6 校舎の廊下位置

表 5 南側廊下のある小学校数

	掲載小学校数*	南側廊下のある小学校数	%
玉名郡	16	0	0.0
鹿本郡	8	0	0.0
菊池郡	17	2	11.8
阿蘇郡	6	0	0.0
上益城郡	10	2	20.0
熊本市	3	1	33.3
飽託郡	13	5	38.5
下益城郡	14	2	14.3
宇土郡	4	0	0.0
天草郡	19	4	21.1
葦北郡	11	1	9.1
八代郡	7	2	28.5
球磨郡	27	9	33.3
計	155	28	18.1

* : 164校のうち、平面図なし8校

表 6 南側廊下主体型の小学校

	校舎形態	小学校名(所在地域)	既存棟建設年	南側廊下校舎建設年	敷地面積(坪)	延床面積(坪)	校舎-運動場
既存棟南側廊下		松高尋常小学校(八代郡)	明治13年	明治44年	1118	239.5	北-南
		五町尋常小学校(飽託郡西里村)	明治26年		586	(教室:94)	北-南
		免田尋常小学校(球磨郡免田村)	明治31年		2124	225.0	北-南
		中村尋常小学校(天草郡)	明治39年		887	(教室:91)	北-南
		湯出小学校(葦北郡)	明治43年		-	127.0	南-北
増築部南側廊下		福岡尋常高等小学校(上益城郡)	明治42年	大正4年	981	[288-384]	東-西
		渡尋常小学校(球磨郡)	明治24年	大正5年	1054	151-304	西-東
		坂瀬川尋常高等小学校(天草郡)	明治32年	明治43年	-	232.8	北-南
不明		教川内尋常小学校(八代郡)	-		420	-	南-北
		下益城高等小学校(下益城郡)	-		-	-	北-南
		御所浦尋常小学校(天草郡)	明治31年		544	269.5	北-南
		松尾西部尋常小学校(飽託郡)	-		-	-	北-南

[] : 図面寸法より算出

方がある小学校にわけ、前者を南側廊下主体型、後者を並立型として考察を行う。

3.1 南側廊下主体型の小学校の建設経緯とその特徴

南側廊下主体型は12校で、いずれも県の中部もしくは南部の小学校であった。延床面積は300坪未満ものがほとんどで、配置構成は北側校舎・南側運動場のものが多いことなど全体の傾向と同様で、特徴的な傾向はみられなかった。

建設年代及びその後の増改築の状況が確定できたものは8校である。そのうち5校は建設当初から南側廊下校舎で、その建設年代は明治30年以前が2校、同30年以降は3校で、校舎形態は全て一列型であった。また、残りの3校は建設当初、南北方向に長い一列型の校舎形態で、廊下は東または西側に配され、その後増築された校舎が南側廊下の形式で、建設年代はいずれも明治後期から大正前期にかけてであった(表6)。

明治30年代以降、政府及び県が北側廊下を推奨しているなか、数は少ないが、主に県の中部から南部にかけて南側に廊下をもつ小学校が散見された。

3.2 並立型の小学校の建設経緯とその特徴

並立型16校のうち、建設年代及びその後の増改築の状況が確定できたものは10校であった。その中で、既存校舎が南側廊下で、その後の増築校舎が北側廊下になるものが7校で、それとは逆に既存校舎が北側廊下で、増築校舎が南側のものが3校みられた。前者はさらに増築の方法により、増築部が既存校舎と一列になるものと、別棟になるものに分けられる。また、後者は全て、増築部は別棟である(表7)。

既存校舎が南側廊下で増築部が北側廊下になる小学校では、既存校舎の建設年代は明治32年の1校を除き20年代である。県が校舎の配置に関する指針で南向きを推奨するが同29年、北側廊下が示される県令が同33年であり、既存校舎の多くはそれ以前の建設で、北側廊下となる増築部は明治30年以降であることから、指針に対応していることがわかる。球磨郡の木上村木上尋常小学校は明治8年創立で、西側部分の校舎は明治24年建設で南

側廊下であるが、東側部分の2階建校舎は大正6年の建設で北側廊下の形式をとる(写真1,図7)。また、上益城郡の滝川尋常高等小学校は明治24年創立で、敷地の北側に位置する同年建設の校舎は南側廊下の形式をとるが、大正4年にその南に校舎が増築され、北側廊下となる(写真2,図8)。

表7 並立型の小学校

	校舎形態	小学校名(所在地)	既存棟建設年	北側または南側廊下校舎増築年	敷地面積(坪)	延床面積(坪)	校舎一運動場
北側廊下化		木上尋常小学校(球磨郡)	明治24年	大正6年	240→1065	226.0	北-南
		高音尋常小学校(球磨郡神瀬村)	明治26年	明治34、大正4年		151→304	西-東
		上村尋常小学校(球磨郡)	明治27年	明治42年		278.3	北-南
		滝川尋常高等小学校(上益城郡)	明治24年	大正4年		581.8	西-東
		多良木尋常小学校(球磨郡)	明治25年	明治45年		—	北-南・囲み
不明		香竹尋常小学校(飽託郡)	明治25年	大正6年	1141	—	北-南・囲み
		小山戸島村尋常小学校(飽託郡)	明治32年	明治41年	1819	216.0	囲み
		新合尋常高等小学校(天草郡)	—	—	—	243.0	北-南
		西瀬尋常小学校(球磨郡)	明治23年	—	1209	171.3	北-南
		山田尋常小学校(球磨郡山江村)	明治31年	—	718	236.8	囲み
南側廊下化		大津尋常小学校(菊池郡)	明治44年	—	3846	491.0	南-北
		柳瀬尋常小学校(球磨郡川村)	—	—	1205	149.8	囲み
		河江尋常小学校(下益城郡)	—	—	—	—	北-南
		慶徳尋常小学校(熊本市)	明治24年	大正3、4年	—	—	囲み
		新明尋常小学校(菊池郡合志村)	明治39年	明治41、大正6年	—	216.0	囲み
		飽田南部高等小学校(飽託郡)	—	大正5年	1698	—	南-北

写真1 木上尋常小学校平面図(県政資料大正4年掲載)

図7 木上尋常小学校略配置・平面図

写真2 滝川尋常高等小学校平面図(県政資料大正5年掲載)

図8 滝川尋常高等小学校略配置・平面図

写真3 慶徳尋常小学校平面図(県政資料大正5年掲載)

図9 慶徳尋常小学校略配置・平面図

写真4 飽田南部高等小学校平面図(県政資料大正5年掲載)

図10 飽田南部高等小学校略配置・平面図

写真5 新明尋常小学校平面図(県政資料大正6年掲載)

図11 新明尋常小学校略配置・平面図

一方、明治後期以降、増築校舎が南側廊下の形式をとる小学校が3校確認できた。熊本市の慶徳尋常小学校と飽託郡の飽田南部高等小学校では、既存校舎が北側廊下の形式で敷地南側に位置し、運動場や学校園をはさんで南側廊下の校舎が増築されている(写真3, 図9, 写真4, 図10)。また、菊池郡合志村の新明尋常小学校は、既存校舎が北側廊下の形式で敷地の北側に位置し、明治41年にその東と南に校舎が増築され、後者が南側廊下であった。大正6年には北と南の校舎のみとなり、運動場をはさんだ配置構成になる(写真5, 図11)。

以上のことから、南側廊下主体型を含めて、地域的には熊本市及びその周辺、並びに、県南地方において、明治後期以降も南側廊下校舎が建設されていたことが確認できた。

4 熊本市議会における小学校建築に関する指針と建設実態

明治 30 年代の小学校建築の設計指針により、熊本県全体としては南側から北側廊下への変更がみられる一方、数は多くはないが依然として南側廊下の校舎が地域的には熊本市周辺と県南でみられた。熊本市では明治 20 年代以降小学校建設に関する案件の審議が目立つようになり、特に、政府が地域の実情に応じた施設計画を求め、県でも詳細な規定をなくした大正期以降、児童数に対する小学校数の不足と施設の老朽化も相まって、小学校の設備に関する議案が審議されている(表 8)。

4.1 大正期から昭和初期における指針と小学校の実態

明治 20 年代では、主に小学校の修繕及び増築の予算に関する案件で、空気の流通や採光などの衛生面、体裁としての玄関、奉安所の設置、並びに、教室の大きさが議案にあがっている。

明治 40 年代に入ると、市周辺の町や村が熊本市に合併されるのを機に、小学校の再編・統合が審議の中心になる。県政資料で南側廊下の割合が一番多かった飽託郡も、大正 10 年以降随時、熊本市に編入される。大正 14 年 2 月 5 日から 17 日の議会では、小学校整理統合に関する建議案が出され、その理由として『毎年学級数の増加に伴ひ校舎の増築及敷地拡張の必要を生じつつあるの現況なるにその施設方法たるや彌縫の計画に過ぎずして本市永遠の教育施設としては頗る不十分なりと認む。』とあり、3 月 31 日には熊本市小学校整理臨時調査会の設置が可決され、学校の設置及び区域、並びに、その設備が調査されることとなった^{注 35)}。その後、昭和 3 年 2 月 28 日から 3 月 22 日の議会では、小学校の整理・合併とともに、小学校設備に関し、『基礎工事はすべてコンクリートを施し、通風採光にも考慮して、廊下などは南廊下を原則とする』とあり、南側廊下を奨励していたことが示されている。

調査会の設置から議会における報告までの3年間の経緯に関しては、史料がなく不明であるが^{注36)}、その間の市の動向を当時の新聞記事から把握する(表9)。大正14年7月中に2回の調査会が開かれ、同年12月7日付の九州日日新聞によると、学校整理案の決定が報告されている。その中で“学校の設備標準”として校地や校舎の規程が示されているが、校舎の廊下に関する項目は紙面上にはなかった。また、その翌15年9月10日付の九州新聞^{注37)}では学校整理の大体方針として先の“学校の設備標準”が再び示されている。ところで、同日付の九州日日新聞によると、熊本市では新たに学校建築調査会を設け、同月12日付の同新聞では『…学校建築の根本方針を決定する筈であるが建築様式の統一は勿論教室の構造から窓の取方、窓硝

子の寸法にいたるまで専ら児童を本位として全部統一し…』とある。同月 16 日付の同新聞では「学校建築標準」という記事があるが、その内容は主に構造・材料に関するもので、窓に対しては『腰壁は二尺五寸とし窓は三尺五寸に縮め欄間を二尺五寸のスリ硝子として其下より室内カーテンを取りつけて総て児童の取扱に便すること』の項目だけであった。その後、昭和 3 年 3 月 4 日付の九州新聞で「今市会に提出された熊本市学校整理根本案」の記事において『…通風採光は特に考慮を払ひ廊下等も凡て南廊下を原則としている…』と、議会でその内容が改めて確認できたが、この間の動向の記述はなかった。明治 42 年の文部省の訓令「学校校舎ノ建築ハ実用ヲ主トスヘキ件」以降、訓令の意図とは異なり学校建築の類型化はますます進んだという指摘があるが^{注 38)}、熊本市では小学校建築に対する検討が

表8 小学校建設に関する主な案件（「熊本市議会史」¹⁶⁾より）

開催年	月日	審議・諮問項目	審議内容
明治23年	7月17日	五福小学校修繕費を本年度市校予算金より支出する件	五福小学校「学校敷内・法蘭ケタル今日」においては、空室の流通や、「光線ノ注射」が「顔ル通セタル所不難」、また昇降口は不便である。・・・十分の修費を加えれば当分差支えない
明治23年	7月17日	手取小学校増築費を本年度市校予算金より支出する件	現在の校舎数の中程に校舎が建てられてゐる。土地利用に無駄が生じてゐる。だから今回新校舎の中央に校舎を設け、この校舎を右側の側面に附築したい。そして、空室の流通、日射の注射にもよく、体操場も不敷である。・・・玄關をもたないのは手取校のみである。・・・玄關があれば不体面である。各校と不揃である
明治25年	7月27～30日	熊本高等諸学校ニ聖彰寺安設置ニ關スル諮問	・・・新校舎は生徒数五十五人で九級教室に編成し二教室に付けるが、教室は三三×五間が二、残りの一教室は三三×四一間、一教室は二二×五一間の二
明治27年	7月27～8月17日	予算編成案	大正二年四月十四日付郡庁ニ九号郡托託黒髮村・池田村・花園村・島崎村・横手村・春日村・岡町村・本山村・本庄村・春竹村・出水村・大江村を渡し、其区域を熊本市に編入の件。・・・
大正10年	4月19日		大正十年度の當額・敷地拡張計画等について質疑応答
大正12年	2月20～23日		教育費では小学校児童数の増加により上級を越え、校舎増築、校地拡張の必要な所もあり、校舎増築の已むを得ぬ所もあるため八八八、九一五を計上した。
大正14年	2月5～17日	予算審議	「小学校の統合整理は根本的に基礎整理を調整するの目的を以て調査委員を設置して積極的に完全な施設計画を樹立し其の区域内に限り進み実行ならぬことを望む」。市長は「・・・この膨大な方針を定めて、校舎の不適性の物に改めていし希望する」
大正14年	2月5～17日	小学校整理統合に関する建議	「小学校の統合整理は根本的に基礎整理を調整するの目的を以て調査委員を設置して積極的に完全な施設計画を樹立し其の区域内に限り進み実行ならぬことを望む」。市長は「・・・この膨大な方針を定めて、校舎の不適性の物に改めていし希望する」
大正14年	3月31日	議決六〇号熊本小中学校整理臨時調査委員会建議4件	・・・調査すべき事項は「一、学校ノ設置及区域、二、学校ノ設備、三、其他整理上必要ナル事項」である
大正15年	2月19～28日	重要案件の審議 大体質問（平野議員） （市長）	・・・小学校整理であるが、市長説明では整理委員会設置より予算を編成したと言ひながら、市長は委員会を先立って行つたが、・・・市長は「学校整理委員は多数有者を組織して意見を聞き、市の理事も加へて作成した案だから実行出来るものになる。・・・」
昭和3年	2月28～3月22日	議題一 号自昭和三年度至昭和四年年度学務概ね続年度支文出方 重要案件の審議 大体質問（平野議員）	大正十五年、昭和二年、三年、四年の四年度の継続事業と、横手市校として、向來・本山を合併して向山校に、畑合・坪井の二村を合併して畑合校に、坪井の一部と畑合を合併して本山校と、坪井と山崎の二村を合併して手取校、殿後と山崎の一部を合併して殿後校、池田・花園・島崎の三校を一枚にして、計五校を設立、その二校を二枚と一校に整理する。その校地、校舎の整理は概算費、教育の理想に従つて堅牢を目標に、基礎工事をすべてコンクリートに施し、通風採光にも考慮して、廊下等は南廊下を原則とすると言ひ委員である。・・・
昭和10年	2月13日	重要案件の審議 一般質問（坪出議員） （市長）	・・・花園校・白川・白谷小の校増築費が計上されておらず、花園・白坪は白川、白川と坪井の二校に連なり、坪井の校舎は八丁目の目録を校舎とする所は、川口・白坪については、白川校を改修して三間建に改修したと理由は、白川校は運動場敷地が数町畝で収容せしむる設備甚く高々、新築三間建に三、四間建スレバ、敷地が狭張るズベテ校舎が狭張ルムコトがでるからであるとなし、・・・

表9 熊本市の学校整理調査委員会等に関する新聞記事

掲載日時	新聞名	記事見出し、要約等	記事抄録
大正14.2.5 九日	市内小学校の根本的整理委員参事会が市会に提出	本市教育課にて目下市参事会の意見に基づき市内各小学校の根本的整理案を立案中であるがこの案は近日より開かる通達市会に参事会の希望と照して提議せることである也…	
大正14.7.4	九州	本市臨時学校整理調査委員の初会合が2日に開会	「調査委員会」を設置及び区域、学校の設備、其他整理上必要な事項とあるに就て一応の協議あり …市会では調査委員会を設け最早二回調査会を開いたとい事である… …特別教室については一面に過ぎないのであるが市特別教室は理科化学室縫紉唱歌手工室の四室又は有らぬ限り…更に委員長陳明書審議することにして… …本市市立の小学校整理問題…にては市学務課にて理想と実際とを準衡した…整理案を作成し各方面の有力者を組織し…整理委員会に提出し既二回の調査会開催近く市会参政委員の選定を受け来月旬頃…更に委員長陳明書審議することにして… …本市市立の小学校は鉄筋コンクリート2階乃至3階建て。新市は木造2階建てを標準とし建物と建物の中間隙間敷瓦葺いとして花壇を設ける計画であるが… …第二、第三案に於いて何れの様式まで費資を節減し得るかは… 本市市の懸念から小学校整理問題は学園側に於いて立案中であった整理案が決定したので既概の通り三回調査委員会を開き審議の結果当局の提案した第二、第三、第四案のうち第一第二案を採用することに決した… …学校の設備標準 一 校地（省略） 二 校舎 …(2)新に建築する校舎は数段上管理衛生上の利便を主とし外観の裝飾を去り質朴整齊を尊とし校地狭小にして然も其の面積困難なる学校に就きては鉄筋コンクリート三層建てない(D)断らざるものにつきは木造二層建てとす。(4)教室は學校教員の左左の設備を行ふ(イ)特別教室… …学校整理委員会の決議に基づく大体方針を掌ぐれば… …新たに建築する校舎は教授上管理衛生上の利便を主とし… …学校の設備標準 一 校地（省略） 二 校舎 …(2)新に建築する校舎は数段上管理衛生上の利便を主とし外観の裝飾を去り質朴整齊を尊とし校地狭小にして然も其の面積困難なる学校に就きては鉄筋コンクリート三層建てない(D)断らざるものにつきは木造二層建てとす。(4)教室は學校教員の左左の設備を行ふ(イ)特別教室…
大正14.10.24	同上	熊本市の学校整理第一案は財政上実行不可能で第二、第三案の上から決定	
大正14.12.7	同上	決定した小学校の学校整理	
大正15.9.10	九州	熊本市小学校整理の大体方針	…専門委員の代表者から本校建築調査会を開発実施計完成前に構造、様式、方等について慎重なる研究を速く進めその方法を決定することにより區々に着手するに… 本市市の学校整理調査委員会は先般二月廿八日午前六時に第一回會を開いた…先ず各教室の隅には教員用の椅子を二個門前の柱間に縦並びに設置し…翌二日第二回開いた學校建築調査委員会は既に実地視察を行つた本市市立および学区建築の本町分署を以て調査すべきである建築設計の統一は勿論市の構造との意の取調、窓の配置のことに關して是を専ら児童を本位として全統練し建築費の如きも出来るだけ低値にて堅牢、耐久を重視し且他の条件を研究決定する方針であると… …及今以後改築等は（増築せず）小学校の建築基準規程は一及び十三日の間に互に縣市技師より意見を請ひ出して研究決定することゝあつた同日調査委員会は建築材料の研究で材料の選考、その使用方法的な建議上の點關於面に目を配つたものと云へるものがあつた… 一 建築は木造二層建てとして基礎及び床下部分に鉄筋コンクリートとし防蟻、防鼠、防湿の施設を施事二、大走り排水溝及び雨水排水管工事とす 一 遊樂場は三尺五寸とし窓は三尺五寸にし総幅間二尺五寸の入り口と硝子とし其下及び室内カーテンを取り付け透氣の取調に努むること …予算の許す限り直ちに仕立て給ふ所を速う久耐力を増す事… 等々専ら衛生及び実用を旨として建築すべき研究結果として完全なうちに理論的に研究すれば研究するだけ次第なら希望が出た経費算出増加… …建築及其他の不平等な点があるとはするが尚ほ調査にも限られるので大正十四年四月の根本樹を樹立する時分派の意見も考慮されたいと云ふ趣意を述べたが… …消息も聞き及ぶに表裏を徹し顧みず敢て青黄不接を唱へたり…
昭和33.4	九州	今市会に提出された熊本市小学校整理基本案	

なされていた。

こうした議会での審議及び市の検討を踏まえ、大正後期から昭和初期にかけて 17 校が校舎の改変を行っており、主にそれぞれの学校史をもとに校舎の建設実態を把握する(表 10)。先の昭和 3 年の議会までに建替えや増改築等が行われていなかった 13 校は、昭和 2～4 年度までの完成予定が示されている。その後、概ね昭和 10 年頃までには何らかの工事が行われており、一番遅い古町小学校では昭和 13 年に新校舎が竣工している。建替えや増築後の概要が確認できたのは 13 校で、その中の 4 校は鉄筋コンクリート造 3 階建校舎が新築され、残りは木造の主に 2 階建校舎であった。鉄筋コンクリート造が選択された小学校はいずれも都市部で、敷地の拡張が難しく、こうした条件の小学校に対しては、鉄筋コンクリート造にすることで 3 階建とし、増加する生徒数に対応していたようである^{注 39)}。廊下位置に関しては、確定できた 6 校全ての小学校において、南側廊下校舎のみ、または校舎が複数の場合、そのひとつが南側校舎であり、市の指針が適用されていることが窺える。県が大正 2 年の改正で、小学校建築に対して関係当事者の裁量に任せるという方針をとり、その後熊本市では、南側廊下の校舎を推奨、実践したことが確認できた。

4.2 熊本市立出水小学校の校舎の変遷

熊本市立出水小学校における創立当初からの校舎の変遷を捉える(表 11)。同小学校は現在、熊本市出水に立地するが、明治期は合併前の託麻郡で、今村、国府村、長溝村の 3 つの村のそれぞれの小学校を起源とする。明治 17 年にそれらが合併され、校名は三友小学校と改称され、現在地とは異なる 380 坪の敷地に、間口 10 間、奥行 2 間半、1 間半の下屋付きで瓦葺の 2 階建校舎と 2 間半×3 間の事務室が建てられた。また、同 20 年には間口 10 間、奥行 3 間の瓦葺平屋建の校舎が敷地の南側に増築されている^{注 40)}。廊下に着目すると、

写真 6 出水尋常小学校平面図（県政資料大正 4 年掲載）

表 10 昭和 3 年市議会で案件に挙げた小学校の建設経緯

昭和3年 市議会録 (2/28～3/22)		建設過程		構造 階数	廊下位置	参考 文献
小学校名	完成予定年度					
一新 橋手	既に完成	大正14.9.12: 第5校舎	大正15.3.30: 第6校舎	木造	-	33)
向山	1年度までに 完成	昭和3.3.2: 第7校舎	昭和12.4: 第1, 第2校舎竣工	木造 2F	-	34), 35)
本山	既に完成	大正14.9: 北校舎落成	大正15.2: 南校舎半分落成	木造 2F	-	36), 37)
現台	3年度	昭和2.3: 南校舎西半分落成	昭和15.10: 北校舎西側2階建教室落成	-	-	38)
坪井	2年度	昭和5.11: 現在地に新校舎	昭和6.2: 全焼	木造	-	39)
黒髪	3年度	昭和2: 校舎拡張(276坪)	昭和15: 木造校舎改築	木造 2F	南、北、東	31)
手取 山崎	既に完成	昭和9.11: 第4, 5校舎付属倉庫増新築	昭和10.11: 校舎改築	RC 3F	-	40)
山崎 慶徳	1年度までに 完成	大正15.9: 鉄筋コンクリート校舎竣工		木造 2F	-	41)
池田	4年度	昭和2.9: 改築移転		-	-	42)
島崎 花園	3年度	昭和3.3: 第1校舎竣工	昭和3.12: 第2校舎竣工	木造 2F	南	43)
春日	4年度	昭和2.6: 2階建校舎新築		RC 3F	南	44)
大江	4年度	昭和7: 本館鉄筋3階建竣工		RC 3F	南	45)
壺川	4年度	昭和11.4: 鉄筋本館3階建延507坪竣工		木造 2F	-	46)
白川	4年度	昭和2.6: 校舎2階建180坪増築	昭和3.10: 本館2階建120坪新築落成	木造 2F	-	28), 47)
本荘	4年度	昭和7.2: 2階建校舎150坪増築		-	-	48), 49)
春竹	4年度	昭和2.5: 1棟増築	昭和7.12: 2階建新築	木造 2F	南	50), 51)
古町	4年度	昭和9: 第1校舎2階建本館落成		RC 3F	南	52)
出水	5年度	昭和5.11: 鉄筋3階校舎完成				

図面上では縁とあるが、明治 17 年の校舎では南側に、増築された校舎では北側に、どちらも運動場に向いて配されている。

現在地に移転するのは明治 36 年で、900 坪の敷地に木造平屋建の 2 棟からなる校舎が建設され、延床面積は 229.75 坪であった^{注 41)}。校舎は運動場の北側に位置し、2 棟が南北に平行に並び並列型で、廊下は北に配され、教室は南面している。明治 30 年代に政府や県が指導している校舎の配置、校舎形態、教室の南面化など、それに沿った平面計画がなされていることがわかる。明治 39 年には南側に校地を 300 坪拡張し、主に運動場に供し、同 42 年には校地の東側に、既存の校舎と直交するように 2 階建の校舎が増築され、生徒の増加に対応している^{注 42)} (写真 6)。

託麻郡が熊本市と合併するのは大正 14 年であるが、同じ年に明治 36 年建設の校舎の中の北の棟が撤去され、建替えられる。校舎はそれまで同様、並列型の配置構成を成すが、廊下位置は南に変更されている。その後、昭和 3 年と 4 年に校地が拡張され、既存の古い校舎を撤去し、昭和 6 年、9 年に校舎が建設されている^{注 43)}。それらは配置構成上、南北に並行に配されるが、廊下位置は南側に変更されるという共通の特徴を持つ。

つまり、出水小学校では、明治中頃までは南側廊下または運動場に向いて廊下が配されていたが、明治 38 年の移転を機に、県の指針に従うように北側廊下となり、さらに、大正 14 年以降の建替えでは南側廊下へと変更されており、熊本市への合併とも相まって、市の指針に対応していることが確認できた。

表 11 熊本市立出水小学校の校舎の変遷

立地年代	明治17～35年	明治36～大正14年	大正14～昭和6年	昭和6～9年	昭和9～30年
略配置・ 平面図					

5 まとめ

政府及び県の小学校建築に対する指針、並びに、熊本市議会における小学校建設に関する案件と、明治44年から大正7年の県政資料及び学校史における図面との比較・分析により、以下の結果を得た。

- ・小学校建築に対する熊本県の指針は明治25年から示され、配置構成や校舎形態に関しては、政府よりいち早く規準を設けている部分もあり、校舎の廊下に対しては、明治33年の県令で北側廊下を推奨している。また、明治42年の文部省の訓令において地域の実情に応じた施設計画を求めたことと期を同じくして、県でも明治41年には、教室の大きさに関して地域の状況を配慮した改正を行い、大正2年にはそれまでの規定をなくし、関係当事者の裁量に任せるという方針をとった。一方、熊本市では大正14年に小学校整理臨時調査会が設置され、校地や校舎の指針が設定され、また、翌15年には新たに学校建築調査会を設け、主に構造・材料に関する指針を示している。さらに、昭和3年、議会に提出された熊本市学校整理根本案では南側廊下が推奨されていた。
- ・県政資料の配置及び平面図から、校舎の配置構成は北側校舎・南側運動場が時代とともに割合が高くなり、校舎形態は一列型が高い割合を示し、並列型も時代とともに増加するなど、政府や県の指針に沿った傾向がみられた。
- ・校舎の廊下位置に関しては、県が明治33年に北側廊下を明確に規定したこともあり、既存の南側廊下校舎に北側廊下が増築される事例がみられるなど、県全体としては時代とともに北側廊下の校舎が高い割合を示した。一方、南側廊下を主張していたと言われるほどに、その割合は全体としては高くなかった。ただ、熊本市を中心とした地域や県南部において、南側廊下の形式をとるものが比較的多くみられたことから、地域性があつたとも考えられる。
- ・熊本市では、昭和3年、南側廊下を推奨しており、平面図等が確認できた昭和以降建設された全ての小学校において、南側廊下の校舎がみられた。熊本市立出水小学校では、明治20年以前に建てられた2つの校舎はそれぞれ南側と北側廊下であったが、同36年建設の校舎では北側廊下に、大正14年以降建設の校舎では南側廊下の形式をとっており、政府と県、並びに、市の指針に対応していることが確認できた。
- 南側廊下の指針の背景は確認できず今後の課題であるが、地域の実情に応じた施設計画を求められながら類型化がますます進んだといわれる時代に、熊本市では小学校建築に対して検討がなされ、新たな指針が提示され、実践されていた。

参考文献

- 1) 青木正夫：建築計画学8 学校Ⅰ，丸善株式会社，1976.4.30
- 2) 菅野誠，佐藤譲：日本の学校建築，文教ニュース社，1983.7
- 3) 青木正夫：文部省は学校建築の発展に何をしてきたか，建築雑誌，第1326号，1992.4
- 4) 大場修：滋賀県下における明治前期の小学校校舎について - 明治期の小学校校舎に関する地方史研究その1 -，日本建築学会近畿支部研究報告集，pp.961～964，1993.6
- 5) 大場修，荒井麻理：明治前期奈良県下の小学校校舎をめぐる動向 - 小学校校舎の地方史Ⅰ -，日本建築学会計画系論文集 第473号，pp.139～147，1995.7
- 6) 大場修：京都旧番組小学校の校舎プラン - 小学校校舎の地方史Ⅱ -，日本建築学会計画系論文集 第512号，pp.245～252，1998.10
- 7) 竹下昌一，飯淵康一，永井康雄：山形朝日町県に現存する明治期小学

- 校建築について - 小規模2階建校舎の平面形式に関する一考察 -，日本建築学会大会学術講演梗概集，F，pp.1449～1450，1993.9
- 8) 竹下昌一，飯淵康一，永井康雄，大槻隆史：岩手県における明治期小学校建築の平面計画について - 生徒控所および廊下を中心として -，日本建築学会東北支部研究報告集 58号，pp.47～50，1995.6
 - 9) 竹下昌一，飯淵康一，永井康雄：岩手県における明治期小学校建築の平面形式について，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2，pp.57～58，1995.8
 - 10) 石田周次，飯淵康一，永井康雄，西野敏信：宮城県における明治期小学校建築について - 生徒控所を持つ校舎の平面形式と分布 -，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2，pp.33～34，1997.9
 - 11) 西野敏信，飯淵康一，永井康雄：岩手県における明治期小学校建築の平面概要，日本建築学会東北支部研究報告集，pp.53～58，2000.6
 - 12) 川島智生：近代京都における小学校建築，ミネルヴァ書房，2015.3
 - 13) 山本昌宏，北野隆：八代市立代陽小学校の鉄筋コンクリート造校舎について，日本建築学会研究報告.九州支部.3計画系，pp.421～424，1997.3
 - 14) 熊本大学教育学部附属小学校：百年の歩み，1975.10.1
 - 15) 熊本縣公文類纂：土地地種變換 學校，熊本県立図書館蔵
 - 16) 熊本市議会事務局：熊本市議会史 戦前編，熊本市議会 1989.3
 - 17) 熊本縣教育会：熊本縣教育史 上巻，中巻，下巻，臨川書店，1975.10.30
 - 18) 熊本県：熊本県布達便覧，明治32～44年，熊本県立図書館蔵
 - 19) 熊本県教育会八代郡支会：八代郡史，1927.8
 - 20) 西里小学校百周年記念実行委員会：にしざと創立百周年記念誌，1976.5
 - 21) 免田小学校創立百周年記念編集委：免田小学校百周年記念文集，1976.3
 - 22) 天草教育振興協議会：天草教育史，1975.12
 - 23) 湯出小学校百周年記念誌編集：創立百周年記念誌，1975.2
 - 24) 上益城郡長：上益城郡誌，1921
 - 25) 球磨郡教育支会：球磨郡誌，1941.8
 - 26) 人吉球磨退職校長会：郷土の学校沿革史 第2部 沿革の概要，1997.5
 - 27) 神瀬小学校百年祭実行委員会：神瀬校百年誌，1975.4
 - 28) 春竹小学校百周年記念事業実行委員会：春竹，1973.12
 - 29) 託麻東小学校百周年記念事業実行委員会：百年託麻東，1975.2
 - 30) 大津小学校創立百周年記念行事期成会：創立百周年記念誌，1975.9
 - 31) 慶徳小学校：慶徳百年，1976.10
 - 32) 旭志村史編集委員会：旭志村史，1993.9
 - 33) 一新小学校創立百周年記念事業期成会：一新百年のあゆみ，1976.3
 - 34) 向山小学校広報部：向山90周年記念誌，1967.2
 - 35) 向山小学校創立百周年記念事業期成会：向山百年，1977.3
 - 36) 碩台小学校：碩台の百年，1974.9
 - 37) 碩台小学校：碩台読本，1993.10
 - 38) 黒髪小学校：記念誌黒髪，1975.11
 - 39) 城東校百周年記念誌編集委員：城東校(手取・山崎・城東)百年のあゆみ，1981.1
 - 40) 池田小学校：池田校創立百周年記念誌，1974.2
 - 41) 花園小学校創立百周年記念事業期成会：花園の百年，1979.7
 - 42) 春日小学校創立百周年記念事業期成会：春日の歴史，1973.6
 - 43) 大江小学校：大江読本，1995.3
 - 44) 壺川小学校記念誌編集委員会：壺川の百年，1978
 - 45) 白川小学校創立80周年記念実行委員会：白川小学校創立80周年記念誌，1990.2
 - 46) 本荘小学校創立百周年記念事業期成会：本荘，1979.3
 - 47) 春竹小学校創立九十周年記念事業実行委員会：春竹，1963.3
 - 48) 古町小学校：わたしたちの古町，1976.10
 - 49) 古町小学校：古町の歴史 古町校創立百周年記念誌，1976.6
 - 50) 林田喜熊：出水校八十年史，1954.12
 - 51) 熊本市立出水小学校：出水校百年史，1975.11
 - 52) 五福小学校創立百周年記念事業期成会：五福百年，1977.6

注

注1) 参考文献2)，p165

三島通良(1866～1925)は明治・大正期の医師で、学校衛生の創始者である。埼玉県出身で、明治21(1889)年に帝国大学医科大学卒業後、同24(1922)年から文部省の委嘱により全国の学校衛生の調査を行い、改善の指針を示した。同28(1896)年には文部省総務局学校衛生課主事となり、東京高等師範学校では学校衛生学の講義を行っている。著作に「学校衛生学」などがある。

- 注2) 参考文献 3), p 51
- 注3) 参考文献 4), p 961
- 注4) 参考文献 13), p 422
- 平面図とともに、校舎の 1, 2 階ともに南側廊下であることが述べられているだけで、その背景等に関する記述はない。
- 注5) 参考文献 14), pp. 619～620
- 昭和 4 年 11 月に竣工した校舎の普通教室に関して、『床、窓枠とも木製で古く、南廊下、北側教室であるため照度が低く…』という記述が平面図とともにある。
- 注6) 参考文献 17) 中巻, p 561
- 注7) 参考文献 16) より、明治 20 年代以降、小学校の修繕・増築の諮問案や予算案の検討や奉安所の設置などが審議されており、特に、大正 10 年以降、生徒の増加と熊本市への町村合併により校区の変更など小学校の整理統合及び学校設備の検討が議案として挙がっている。
- 注8) 分教場 21 校、方位が確定できなかった 11 校は除いている。
- 注9) 参考文献 17) 中巻, p 149
- 注10) 参考文献 2), pp. 165～184
- 注11) 九州日日新聞社が明治 21 年～昭和 17 年にかけて発行していた新聞
- 注12) 参考文献 17) 下巻, pp. 52～56
- 注13) 参考文献 2), p 229
- 注14) 参考文献 17) より、明治 11 年の小学校数は同年の学事年報に掲載の明治 4 年から同 11 年に設立された小学校数の和(上巻, pp. 443～461)、明治 19 年の分は支校を含んだ小学校数(中巻, pp. 104～105)、明治 33 年の分は尋常小学校、尋常高等小学校、高等小学校の総数(中巻, p 562)、大正 2 年の分は同年 1 月に県から視学会議に示した資料からのものである(下巻, pp. 54～56)。
- 注15) 明治 5 年当時の白川県と八代県の区分を参考に大きく北と南に大きく 2 つに分け、前者は更に現在の県北と県央に該当する郡に分け、後者は球磨郡が江戸時代には相良藩であったことから独立して扱った。
- 注 16) 参考文献 19), pp. 148～151
- 注 17) 参考文献 20), pp. 63～65
- 注 18) 参考文献 21), pp. 5～6
- 注 19) 参考文献 22), pp. 230～231
- 注 20) 参考文献 23), pp. 38～45
- 注 21) 参考文献 24), p368
- 注 22) 参考文献 25), p435、参考文献 26), p84
- 注 23) 参考文献 22), pp. 511～513
- 注 24) 参考文献 25), pp. 427～428
- 注 25) 参考文献 26), pp. 98～100、参考文献 27), pp. 51～61
- 注 26) 参考文献 26), pp. 44～47
- 注 27) 参考文献 24), p365
- 注 28) 参考文献 25), p422
- 注 29) 参考文献 28), pp. 1～18
- 注 30) 参考文献 29), pp. 1～3
- 注 31) 参考文献 25), p434
- 注 32) 参考文献 25), pp. 431～432
- 注 33) 参考文献 30), pp. 12～14
- 注 34) 参考文献 31), pp. 202～251
- 注 35) 参考文献 32), pp. 1233～1236
- 注 35) 大正 14 年 4 月 14 日付、市告示第三十一号
- 注 36) 参考文献 16) の元となる市議会録は、該当する時代のものが昭和 28 年の大水害で消失している。
- 注 37) 九州新聞社が明治 43 年～昭和 17 年にかけて発行していた新聞
- 注 38) 参考文献 2), pp. 485～486
- 注 39) 参考文献 16), p1215
- 注 40) 参考文献 51), pp. 15～18
- 注 41) 参考文献 51), pp. 27～28
- 注 42) 参考文献 51), p 34
- 注 43) 参考文献 51), pp. 45～49, pp. 52～53

BUILDING GUIDELINE OF KUMAMOTO PREFECTURE AND CITY AND THE CONSTRUCTION ACTUAL CONDITION

A study on the elementary school building with a south-side corridor

Kazuhide AKIMOTO *

* Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Sojo University, Dr. Human Env.

Most of elementary school buildings have a corridor in the north side. This form was established by government lead after the Meiji middle. It is indicated that Kumamoto prefecture insisted on the corridor on the south strongly against this current.

In the Kumamoto prefectural government data, the document and drawing of the notification of an elementary school from Meiji 44 to Taisho 7 are left. And in the Kumamoto municipal assembly, the bill about elementary school construction was discussed at the same time.

In this study, it is the aim to clarify the actual condition and the background of the elementary school building with a south-side corridor in Kumamoto prefecture from Meiji to the early stages of Showa. Therefore, the following four viewpoints were set up.

1. The characteristic in the guideline of an elementary school building of Kumamoto prefecture: comparison of guideline of the government and Kumamoto prefecture of Meiji and Taisho period
2. The characteristic in the arrangement composition, form, and corridor position of a school building: analysis of arrangement and plan in prefectural government data
3. The characteristic of the elementary school building with a south-side corridor: construction process, and arrangement and plane composition in history of school
4. The actual condition of the elementary school in Kumamoto city after the Taisho: guideline of city by municipal assembly data, and arrangement and plane composition in history of school

The following results were obtained by analysis.

- 1) As for the guideline of Kumamoto prefecture of the elementary school, the standard was shown about arrangement composition and school building form in Meiji 25 earlier than the government.
- 2) About the arrangement composition of the school building, the type of school building on the north and playground on the south increased as time passes, and about the school building form, an one-line type indicated the high rate to be about 40 percent at any time, and the parallel type was increasing, so the tendency according to the guideline of the government and prefecture was seen.
- 3) About the corridor position of the school building, although it is said that Kumamoto prefecture insisted on the south-side corridor in school buildings, numbers of that building were few and their rate of a north-side corridor increased with a time. However, since there were many school buildings with a south-side corridor at the southern prefecture area and centering on Kumamoto city, it is thought that there was regionality of corridor on the south.
- 4) After the Meiji 40s, the Kumamoto prefecture changed to the guideline in which he leaves it to judgment of each corporation. Kumamoto city recommended the south-side corridor in Showa 3, and accordingly school building with a south-side corridor increased after that.

(2016 年 12 月 26 日原稿受理, 2017 年 6 月 19 日採用決定)